

ハイリスク新生児収容施設における多胎児の管理状況

(分担研究: 多胎児に対するケアのあり方に関する研究)

研究協力者: 竹内 豊

要約: 多胎児は早産出生傾向と高い合併症発生率を有しハイリスクな状態にある。近年多胎児の出生が増加しているといわれるが、ハイリスク新生児収容施設においてはどのような収容状況であるかを調査した。その結果1991年から1993年にかけてハイリスク児としての絶対数は著変なかったが、不妊治療による多胎児の数が増え、五胎児が増え、NICU収容期間が増加していた。

見出し後: ハイリスク多胎児、不妊治療、新生児集中治療(NICU)

はじめに

近年の不妊治療の進歩にともなって多胎児の出生が増加しつつあるといわれるが、多胎児は早産出生傾向が高く合併症も多くハイリスクな状態にありやすく、新生児期の管理にもきわめて慎重な対処が要求される。特に品胎以上の児の出生に当たってはNICUにおける集中治療ベッドの確保にも頭を痛めることも少なくない。そこで私はNICU多施設の多胎出生児管理状況を調査して経年的な変化を検討した。

「目的」

次のような事柄を目的として調査した。

1. ハイリスク児としての多胎児入院数は年を追う事に増加しているか
2. ハイリスク多胎児の妊娠中、不妊治療によるものは増加しているか
3. 多胎児の集中治療期間および入院期間は増加しているか

「対象と方法」

全国のNICU施設にアンケート調査を行って、このうち今回は産科と新生児科を併設する施設の1991年から1993年の3年間のハイリスク多胎新生児の管理状況について検討した。

検討対象とした施設は市立札幌病院、岩手医科大学、仙台赤十字病院、新潟市立病院、埼玉医科大学総合医療センター、松戸市立病院、日本赤十字社医療センター、東京女子医科大学、昭和大学、日本大学、名古屋市立大学、名古屋市立城北病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、安城更生病院、高槻病院、大阪府立母子保健総合医療センター、淀川キリスト教病院、神戸大学、香川医科大学、倉敷中央病院、聖マリア病院、鹿児島市立病院である。

「結果」

1. 入院数

検討対象とした施設のハイリスク新生児収容ベッド数は762床(年間278130)、集中治療ベッド数は205床(年間74825)であった。収容数の状況は表1に示す結果であり、経年的な有意差はみられなかった。

表1 入院数

	1991	1992	1993
総入院数	6340	7049	6731
多胎児入院数	752	731	743
単胎入院数	5588	6318	5988
多胎%	11.9	10.4	11.1

2. 多胎妊娠と不妊治療

多胎児の絶対数では経年的に有意差はなかったものの、母体における不妊治療の割合は1991年20.0%、1992年23.9%、1993年27.4%と増加傾向にあった(表2)。

表2 多胎妊娠と不妊治療

	1991	1992	1993
多胎母体数	405	397	402
不妊治療数	81	95	110
不妊治療%	20.0	23.9	27.4

3. ハイリスク多胎児の内訳と収容内容

多胎児の内訳では各年度とも双胎児が圧倒的に多く1991年83.5%、1992年82.9%、1993年81.3%であった。特徴的なことは五胎児が前2年の各10名にくらべて1993年

表3

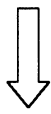
	1991	1992	1993
人工換気日数	3327	4045	5609
NICU入院日数	9357	10781	13186
NICU占有率%	12.5	14.4	17.6
総入院日数	37283	40493	41272
入院占有率%	13.4	14.6	14.8

「考察」

調査検討した22施設におけるハイリスク多胎児の収容数と全体入院数に対する割合は3年間では有意な差はなかった。ハイリスク多胎児の母体調査では不妊治療による妊娠が増加している傾向がみられ、とくに五胎の増加がみられていた。収容状況にみられるように、多胎児はよりハイリスク化し入院期間も長くなってきており、今後このようなペースで不妊治療による多胎児発生が増加して行けばNICUの機能を超えてしまうことが危惧される。さらに多胎児では育児上の問題点も多く、これに対するサポートシステムの整備も急を要する事である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:多胎児は早産出生傾向と高い合併症発生率を有しハイリスクな状態にある。近年多胎児の出生が増加しているといわれるが、ハイリスク新生児収容施設においてはどのような収容状況であるかを調査した。その結果 1991年から1993年にかけてハイリスク児としての絶対数は著変なかったが、不妊治療による多胎児の数が増え、五胎児が増え、NICU収容期間が増加していた。